

令和2年度岡山県立林野高等学校学校評価書

校長 竹内 成長

1 学校自己評価について

(1) 評価結果

別紙「令和2年度 岡山県立林野高等学校具体的な学校経営目標・計画」参照

2 学校関係者評価について

(1) 学校運営協議会委員名

芦谷 武司 (西粟倉村立西粟倉保育園 園長)	廣山 知史 (Google for Education営業企画本部 部長)
新田 義純 (美作市立江見小学校 校長)	江見 勉 (美作市役所 保健福祉部長)
松本 勝巳 (美作市立美作中学校 校長)	有友 義行 (元本校校長)
小林 朋道 (鳥取環境大学環境学部 学部長)	上原 正之 (元岡山県立津山東高等学校校長)
白沢 健二 (白沢プランニング 代表取締役)	後藤 基 (三重大学 名誉教授)
早瀬 崇之 (ハヤセ株式会社 代表取締役)	小林 充子 (同窓会副会長)
石川 元士 (石川電制株式会社 代表取締役)	清水 みゆき (PTA会長)

(2) 学校関係者評価について

学校運営協議会における学校関係者評価として、委員から指摘いただいた点は、次の通りである。

①高校として、どんな人材を育成していくのかということを変更して洗い直して検証すべきである。入学してから3年間でどういうふうに行っていくのか、3年後の姿はどうなるのかということをも具体的に示しながら、やっていく必要がある。

②みまさか学やMDPが、子どもたちが活躍する場になっているので、それを活かしながら、豊かな人間性をしっかり育成してほしい。特に、地域の魅力を広く発信していく力を身につけていくみまさか学は非常に良い取組であるので、もっと地域のみなさんが参加できるような行事にもっていくとよいのではないかと。

③広報の中で生徒が活動するということが大切である。生徒が林野高校をどう発信していくのか。また、生徒が出かけて行って活躍する姿が大切である。いろいろな場面で、学校の先生の説明に加えて、生徒が説明をすることで、非常に良い評価がたくさん出てきた。

④塾の先生の言うことは結構生徒は聞く。塾との連携が県南の高校は非常に強い。県北でそこまでやっているところはないので、今年度同様に塾との連携を強め、林野高校の魅力を発信していけばよいと思う。

⑤Chromebookに関して先発隊として林野高校が実践しているが、実際に林野高校の生徒に対して、生徒の学業・学力の面で成果を検証する必要がある。今も海外との交流が非常に頻繁に行われているが、英語に対する生徒の興味や素養はあるはずなので、それを上手くChromebookを使って学習意欲を高める取組をしてもらいたい。

⑥生徒発表を御覧いただいたGoogle部長のコメント「林野高校のみなさんがやっていることはGoogleの社員がやっていることと変わらないことに驚いた。感染症の影響で世界中のGoogleの社員のほとんどがオフィスに入ることができなくなり、ほぼ3分の2、20万人くらいの社員がコミュニケーションのためにGメールを使い、ビデオ会議やGoogleドキュメントとスライド、これだけで仕事を回している。それを高校生の皆さんがたった数年足らずで取得して活用されているというのは、5年後10年後日本全体がものすごく変わっているだろうと感激した。」

⑦Chromebookに関して、高校卒業後、高校3年間でのChromebookの活用がその後どのように役立っているのかを調査するとよい。現在それができるのは林野高校の強みである。

⑧中学生がどんなことに魅力を感じるのかを知っておくことは重要である。また、地元企業が、どんな人材を求めているのかも知った上で、就職希望者にも手厚いサポートをしていることを、説明会等でアピールした方がよい。

3 来年度の重点目標(案)について

学校評価書等をふまえて、来年度の重点目標(案)は次のとおりである。

○資質・能力の育成を基盤とした授業改善を進め、教科間の指導連携やICT等を利用した授業法の開発を進める。

○生徒自身が主体的、計画的に取り組む活動等を展開する。

○生徒自身が社会との関わりの中で、自らの生き方を考え進路を実現することができる。

○「開かれた学校」の観点から、小中学校・地域との連携を図る。

○組織的で効率的な学校経営や個人の意識改革を進め、負担軽減を図る。